

## 令和元年 11 月 28 日 市長定例記者会見 会見録

### 【司会】

ただいまから、市長定例記者会見を開催いたします。

先ほどご案内しましたとおり、本日もライブで配信をしております。

本日は、案件がございませんけれども、市長の方から一点ご報告がございますので、よろしく願います。

### 【市長】

はい、よろしく願います。

これはお礼かたがた、皆さんに報告をしたいなというふうな気持ちでお伝えをいたしますが、本当に皆さん方のおかげで、ずいぶん情報発信をしてくださったので、二つ、手ごたえを感じている案件があります。

一つ目は、去る9月の19日に、この場で発表した、お悔やみ窓口の設置の件であります。それから2か月あまりたったわけですが、11月の20日までに3つの区役所合わせて、1,149人の市民の方々がお悔やみ窓口を利用してくださいました。当初の設計は、一日、3～4名の方の利用を想定しておりましたが、2か月、ふたを開けてみると、平均して一日10人以上、11人と言ってもいいでしょうね、10人以上の方々が窓口を利用された計算になります。つまり、当初の予定の3倍以上、このおくやみ窓口をご利用いただいたということでもあります。また、アンケート調査もしておりますのでそれを見返してみると、利用された方々には「一人の職員の方に丁寧に説明をもらい、とても助かりました」「身内を亡くした不安な気持ちが安らぎました」であるとか、「お悔やみ関連の行政手続きというのは、ものすごく大変なめんどくさい手続きだと聞いていましたけれど、スムーズに手続きができて良かったです」とか、あるいは、これの特徴なんですけれども、職員が同行するんですね、さまざまな課に回るわけですけども、その「同行をしていただいたことが、とても心強く助かりました」ということが、複数、活用コメントとして感想や声をいただいたのも、これから全国の自治体に波及してほしいなということの気持ちにもなりました。

職員が、市民の皆さんのニーズにお応えをし、寄り添えているということは、実は市民の皆さんに対してのサービスであると同時に、職員、市役所の職員の公務員としてのモチベーションも向上にもつながっているというふうに、私は理解をしております。

当初は本来業務がある中で、この仕事を上乘せするということに対して慎重な意見もありました。しかしながら、例えば葵区では職員の数を、一人から三人に増やして、これは石野区長のリーダーシップの下でありますけれども、今日は石野さんはいらっしゃらないかな、本当に石野区長の現場のリーダーシップで増員をして対応してくれてますけれども、職員同士がね、都度、都度ニーズに応じて相談をして助け合って、これ、市民の皆さんのお悔やみ窓口に来る市民の方の心情を察して、助け合って、市民の皆さんのためにという一点でね、工夫してやってくれている、利用者目線、市

民目線に立ったおもてなしの心が職員の中で育ってきているのかなあということを、市長として、たいへん嬉しく思っています。

従来から、私は静岡市役所からお役所仕事を無くそう、というふうに呼びかけておりますけれども、その端緒の事業になったなというふうに思っています。この当初の想定を大きく超えた一つの成果、これもメディアの皆さんが市内はもとより、市外、全国に対して、このユニークな取り組みを静岡市役所、全庁的にやるんだと大きく報道してくださった、そのおかげさまでと本当にお礼の気持ち方々、報告をさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。

ついでに、もっかもっかのことなんですけれども、もう一つ、お礼かたがた、ご報告をさせていただきますと、これも私の想定以上なんです。実は、情報発信力の強化と静岡市のPR力の向上という目的をもって、民間から広報についての専門的なバックグラウンドのある、そういう部長級の戦略広報監を公募しようという取り組みが今、始まっています。

11月の13日に締め切ったわけでもありますけれども、この部長級の令和2年度からの戦略広報監の公募に対して、なんと1名の枠にですよ、515人の応募がありました。当初、私は、300人の応募を目標にしたいねと担当の職員と打ち合わせをしていたんですが、それをはるかに上回る応募がありました。これはビズリーチ、これテレビコマーシャルでもずいぶんね、宣伝をされているので、ずいぶんエンドユーザーの方にも知られた企業になりましたけど、ビズリーチに業務をお願いしているわけなんですけれども、これもメディアの皆さん、市政記者クラブの皆さんにずいぶん大きく取り上げてくださったおかげで、これだけの応募があったのではないかなということを感じております。今、書類選考を経た上で、一次面接を終えて、次のステップに進もうという段階になっております。

今後、三年間の静岡市の戦略広報、司令塔になる方です。また、中途採用と言いますか、ダイバーシティ、いわゆる22才、学校卒業して公務員になって、そのままということだけではなくて、多様性に富んだ人材をこれから静岡市役所、集めていこうという取り組みのひとつでありますので、これ本当に良い方に来てもらわなければ、その後の波及がありませんので、間違いのないような、この情報発信の司令塔、舵取りを託す人物を、私もしっかり見極めさせていただきたいと思っております。いずれにせよ、本当に500人以上の応募があったという嬉しい悲鳴でありますけれども、皆さまにお礼かたがたこれも報告をいたします。

以上2点であります。最初、お伝えをさせていただきました。

#### 【司会】

ご質問、ご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。本当にいろいろな報道ありがとうございました。

#### 【市長】

ありがとうございました。

**【司会】**

それでは、続きまして幹事社質問の方に移りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

**【読売新聞】**

よろしくお願いいたします。読売新聞です。幹事社質問させていただきます。

リニア中央新幹線静岡工区の未着工問題なんですけれども、その問題をめぐってJR東海が 20 日ですね、大井川の環境保全策を説明するために申し入れていた流域 10 市町への個別訪問を断られたということを明らかにしました。静岡市は県と流域市町などで構成される大井川利水関係協議会に入っていないなど、他市町とは立場が異なる中で、一方で、大井川は静岡市北部の井川ダムにつながる上、ダム周辺には現在も集落があるなど、まったく関係がない状況とは言えないと思います。今後、JR側から正式な訪問打診があった場合、静岡市としてはどのようなスタンスで対応していくのでしょうか。よろしくお願いいたします。

**【市長】**

はい、どうもありがとうございます。JR東海さんから正式なご依頼があったら、私はいつでもお会いをしたいというふうに思っています。私たちやっぱり井川地区を擁しておりますし、台風 15 号の被害も受けております。都度、都度、担当職員を通じて、また私がダイレクトにメールをしたり、連絡を取り合って風通しの良い状態をつくっております。それは去年、私どもは合意文書を取り交わしておりますのでね、それに基づいて必要であるならば、いつでもお会いをしたいというふうに思っていますし、日ごろの連絡体制というのは職員とJR東海さんの社員とも取り合っているというふうに、私は思っています。

**【司会】**

幹事社さんよろしいですか。はい、ありがとうございました。

**【市長】**

少し付け加えて言うならば、そういう場面、場面で、私から直接ね、中下流域の自治体に配慮するようにという一文を去年の合意文書にも盛り込ませていただいたので、それについて都度、都度ね、それについては今後とも頼みますよと。流域市町のご意見を聞いて、早く合意に向けた歩みを進めてほしいですよ、ということも申し上げていきたいなというふうに思っています。

**【司会】**

はい、幹事社さんありがとうございました。それでは、各社さんからご質問がありましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【市長】

これから本当に忙しくなりますよね。どうぞ。

【中日新聞】

中日新聞です。前回の市長定例会見の中での発言についてお伺いしたいことがあります。清水庁舎の杭の解体問題なんです、前回の市長会見の中で、その杭の計算が7億2,000万という解体費に計上されていないことについて、市長からそのことはまだ桜ヶ丘病院の移転ということが前提ではなかったというご発言がありましたが、この発言の意図について改めて教えていただければと思います。

【市長】

そういうことです。つまり、企画局のアセットマネジメント推進課において、いずれにせよ老朽化、あるいは災害対応で、この清水庁舎を何とかしなければいけないという中で生まれたことだということ、を、前回、申し上げたとおりであります。

【中日新聞】

そうしますと、この解体費7億2,000万円が、桜ヶ丘病院移転が前提でないということだったんですが、時系列を整理しますと、この7億2,000万円という試算が出されたのが、2017年12月の検討委員会になりまして、で、その年の4ヶ月(9ヶ月?)ほど遡る3月に、すでに桜ヶ丘病院のほうで清水庁舎へ移転ということが決定されているわけなんです、清水庁舎の跡地に桜ヶ丘病院が移転することが決定された上で、あえてそこは前提ではないということで試算をしたということでしょうか。

【市長】

おっしゃるとおりです。これも前回申し上げたとおりなんですけれども、先ほど申し上げました構造計算については、企画局のアセットマネジメントの立場で業務があったということですね。で、一方桜ヶ丘の移転の問題は、公的な病院を所管する保健福祉長寿局内で議論が出たと。このところが別立てで議論が、本当に一つの縦割り行政だったんですね。だから、別の議論。だから、そのタイムラグが生じてしまったというのが実情です。

しかし、これ、Win-Winの関係にしなければなりませんので、企画局のアセットマネジメントの立場で、現有地で大規模改修するのか、建て替えるのか、はたまた違う土地に建て替えるのかという結論で、費用対効果の面でね、コンパクトシティという流れの中でも駅前移転がベターだという結論が、企画の方から上がってきていましたのでね、それを尊重した上で一つの土地提供の可能性のある土地として、JCHOさんのほうにもね、この土地も提示をしていたので、これを受け入れるということ、これは全市民的な私と三役の中で、これ決まっていたということになります。決して、桜ヶ丘病院ありきではないとだけ伝えておきたいなと思います。

【中日新聞】

最後に確認ですが、その2017年3月に桜ヶ丘病院と市長で、ここで共同会見をされて、もう清水庁舎跡地に桜ヶ丘病院が来ることが決まりましたということが、3月に決定した上で、12月なのでその9ヶ月後ですね、そこで出た試算では縦割り行政の関係で実際は決定がされていたものの、試算は前提ではないということで試算をしたということでよろしいでしょうか。

【市長】

はい。何か補足が三役からあったらお願いしたいです。大丈夫ですか。

【美濃部副市長】

副市長の美濃部です。当時、桜ヶ丘病院が清水庁舎跡地に移転したいという意向はありましたけれども、清水庁舎の建て替えを考えるにあたって、移転が有利か、それとも現地で耐震補強とかするのが有利かと、そういうのを考えるにあたっては、そういう周りの諸事情関係なしに、純技術的に検討すると。そういう観点に立って上物だけを撤去する7億2,000万円ということを、数字を置いたということでございます。

【中日新聞】

ありがとうございます。

【司会】

よろしいですか。はい、他に。はい、静岡朝日テレビさん。

【市長】

はい、どうぞ。

【静岡朝日テレビ】

朝日テレビです。清水庁舎の移転に関して、住民投票の実施を求める市民団体が22日からの署名集めの開始をですね、延期する方針を固めたんですけども、それに対して市長の受け止めをお願いします。

【市長】

都度、都度、申し上げているとおり、地方自治法で担保された住民請求の制度ですので、この事態の推移というのを見守っていきたいと思っています。

【静岡朝日テレビ】

ありがとうございます。別件ですね、リニアの話なんですけども、国交省の審議官が22日に流域

市町を回り終えたということなんですけども、その中で川根本町の鈴木町長から、JRと静岡市の昨年6月の協定について、ボタンの掛け違いも残っていて、その懸念がマイナスになっているという発言があったんですが…

【市長】

何についてマイナスになっているんですか、川根本町とJR東海さんとの関係ですか、それとも川根本町と静岡市の関係ですか。

【静岡朝日テレビ】

流域市町とJRの…。ちょっと考えを整理します。

【市長】

よろしくお願ひします。また個別にもお話ししますよ。はい、ありがとうございました。

【司会】

はい。NHKさん、どうぞ。

【NHK】

NHKです。桜ヶ丘病院について、質問は変えます。

前々回の記者会見です、病院が移転後にどういうものになるかというビジョンと、その前提となる医師確保対策について、市長はまず病院側が主体、開設者であるJCHOとして、それを、ビジョンを示して医師確保対策を率先して取り組んだのを見た上で、医師確保策、市側がどうサポートするかを考えたいという発言をされているんですけども、これについて、私が取材している限りにおいては、病院、JCHO側から、ちょっと、いわばがっかりしたというような反応を聞いておまして、医師確保策が前提ですけども、それはJCHOが、まず率先してやるのは当たり前なだけで、それは市と地域一丸となってやるということではなかったのかと。

それをJCHO側が、まずやるのを市側が受動的にサポートするというのでは、ちょっと違うんじゃないかという意見を、ちょっと耳にしているんですけども、そのあたり、市長の認識、もう一度、伺えますでしょうか。

【市長】

これはJCHO側が主体的にやってもらわなければいけませんね。それに対して私たちも医師確保が難しいということが、清水病院でも静岡病院でも実感をしておりますので、全面的な協力を桜ヶ丘病院の医師確保に対しても講じていきたいというふうに思っています。

【NHK】

例えばですね、市として大学病院と交渉する、いろんなやり方あると思います。寄付講座を市として提供して、その代替えとして派遣してもらおうとか。市側として積極的に何か医師確保に動くということは、前提としてお考えになってないんでしょう。

【市長】

JCHO から声があれば、前向きに検討していきたいと思っています。

【NHK】

それも含めて依頼に基づいて、という…

【市長】

もちろん。

【NHK】

ある意味受け身的な立場になるというか…

【市長】

受け身というか、JCHOが経営主体です。JCHOが自分の医療職職員を募集するわけですよね、当たり前じゃないですか。

【NHK】

それが、尾身理事長がおっしゃる医師確保が前提ですよ、ということに…

【市長】

一つ言うならば相川院長に、厚生労働省に、地域医療構想が、突如として発表されたじゃないですか。そして、清水桜ヶ丘病院もその対象に入っているじゃないですか、迷惑千万な話です、私からすると。厚生労働省に対して、これは、この前、その説明会があつて、ずいぶん他の現場の方々からも、厚生労働省ね、批判をされたということですけども、その気持ちがよく分かります。だから、負けるなど。清水桜ヶ丘病院は、もう本当にこれから新しい病院を作るという意欲に燃えているわけですのでね。こんなことに負けずに、粛々とこれから医師確保も含めた上でね、素晴らしい病院を清水でね、整備をして欲しいし、その側面的な協力は、私たちはいくらでもさせていただくということを申し上げております。

【NHK】

もう一つ披瀝しますと、側面的な協力とおっしゃいましたが、これ側面的な協力と、今、おっしゃいま

したが…

【市長】

側面的な協力というのは、主体者経営者のJCHOだからという意味ですね。

【NHK】

また、別の市内の医療関係者のトップクラスの方からのご意見として、例えば清水で、単独の問題でなくて、清水厚生病院も上がっているし、清水病院だってあると。そういう清水の病院を有機的にどう役割を決めいくかというのは、経営母体がそれぞれ違うので、どなたかがリーダーシップを、市がリーダーシップを取ってもいいんじゃないかという意見も出ているんですが、そのあたりはどうお考えでしょうか。

【市長】

まったくそのとおりです。静岡市は、市立清水病院の経営責任を担っておりますが、決して清水病院ファーストの考えには、私は立っておりません。清水病院も含めて、桜ヶ丘病院、そして清水厚生病院、3つの総合病院、これ、どれも不可欠でありますので、この3つの総合病院の総合力の中で、どうやって清水区の医療体制をこれからも維持していくか、市民に安心感を持っていくか、そのリーダーシップを静岡市が取っていくべきだというふうに思っておりますので、清水病院を後にしても、桜ヶ丘病院のことについて、今、私は時間を費やしているわけであります。

【NHK】

それはまさに、今、厚生労働省から求められている地域医療構想の推進にあたって、事務局は県でありますけれども、静岡市も静岡医療圏を単独で所管する市として、積極的に、この議論に関わっていくということでしょうか。

【市長】

むしろ、これ、介護の計画は静岡市が、静岡市内やれるんですね。医療は県に権限、残っているんですけどね。この医療圏も政令指定都市の市にやらせてほしいというふうに、私は常日頃を感じていて、それによって医療とか介護のね、協力体制というかな、連動体制もできますのでね、医療が県、介護が市、そして、年次も食い違っていると。このちぐはぐさがね、とても私はやりづらさを助長しているというふうに思っていますので、これもね、私たち市が責任を持ちたいという気持ちです。

【NHK】

すいません。実際、事務局の県からは、静岡二次医療圏域については、静岡市単独の話なので、静岡市にもうちちょっと積極的に関わってもらってもいいんじゃないかな、関わってほしいなという意見が出て、私も聞いているんですが…。

【市長】

誰が言っているの、そんなこと。

【NHK】

事務局の方です。

【市長】

それはね、記者ね、特定の方はそれぞれ、いろいろ言いますけどね、それをもってして、私に意見を求めるのは、少し違いますよね。県とはもちろん連携してやっていますが、市長としては、市が全部権限をもらいたくらいだということを伝えてください。

【NHK】

わかりました。伝えます。

【司会】

いかがでしょうか、朝日テレビさん、どうぞ。

【静岡朝日テレビ】

先ほどの件なんですけれども、鈴木町長からですね、大井川の水問題の認識で、流城市町と静岡市の足並みが揃っていないんじゃないかというふうな声も挙がったんですが、それについてどう思われますか。

【市長】

背負っているものがね、それぞれの自治体、違うと思うんですね。私は、最上流域の井川を背負っている、そして、もちろん川根本町さんと南アルプスエコパークの取組をやってきましたので、環境保全、南アルプスの環境保全というものは大事です。また、一方で井川村は 50 年前に、様々な課題を乗り越えて静岡市と合併をしたと。その時の約束が交通アクセスの整備ということでありましたので、この地域振興の点も私たちの大事な行政課題だったわけですね、静岡市は、ですから、この環境保全と地域振興をどう両立するのかという問題意識を持ってJR東海さんと交渉したということですね。ことほどさように、それぞれの市町で、それぞれ、その自治体独自の行政課題を持った上でJR東海さんと交渉をするんだらうというふうに思っています。とにかく水だけ何とかすればいいんだというような立場もあるでしょうね。地域振興との両立ということで臨むところもあるから、これはもう違うのはやっぱりやむを得ないのではないかなというふうに思っています。対リニアに対してはね、ただ一方で、私たちは5市2町の連携中枢都市圏というものを構成しておりますけれども、そこは7自治体、例えば観光の面でね、GOTOというね情報紙、ご覧になったことございますか。ぜひ、広報

課からね、また入手して欲しいんですけども、GOTOという、この域内の5市2町のリニアでいう流域市町をね、兼ねた5市2町の域内の交流人口を拡大していくと。例えば、静岡市民が牧之原でね、イベントがあったら、ここ行ってみようとか、川根本町に面白いね、取り組みがあったらそこへね、日曜日に出かけてみようとか、そういう情報の共有化を図るために、5市2町のGOTOという情報紙、静岡版びあなんて、私は言うておりますけれども、そういうものをコツコツと昨年来、作っていてその効果が出てきているんですね。

で、これ静岡市が旗を振って、事務局も中心にやって、それでこれ、ずっとずっと発行してきました。そういう意味では5市2町という連携中枢都市圏は一生懸命、広域行政をしていきたいし、その中で最大の自治体ですのでね、やっぱり私たちが、やっぱり汗をかかなきゃいけないんだらうなというふうに思っています。それは川根本町の町長にもね、ぜひご理解いただきたいなというふうに思っています。

**【静岡朝日テレビ】**

もう一点、リニアをめぐるですね、JRと県と流域市町の話の中に、今、国交省も加わっていると思うんですけども、静岡市のスタンスとしては、やはり今までどおり見守っていくというスタンスなんですか。そこに加わっていくというような現段階での方針というのはないのでしょうか。

**【市長】**

加わっていくっていうのは、どういう意味で加わっていくんですか。

**【静岡朝日テレビ】**

これまでは、それを見守っていくっていうような静岡市さんのスタンスで、市長もコメントされていたんだと思うんですけども。

**【市長】**

私の立場でコミットメントするべきことは、積極的にコミットメントしていきたいなというふうに思っています。もちろん中下流域の水の問題をね、よくヒアリングしてくださいよ、というふうに江口審議官に申しあげましたしね。また、川根本町が望んでいる閑蔵線、このことについてもね、私たちが閑蔵線の整備は望んでいますということを、江口審議官に申しあげました。

**【静岡朝日テレビ】**

市のスタンスとしては、コミットメントしていくのか、見守っていくのかと、どちらかといえばどちらなのでしょう。

**【市長】**

場合によってですね、ただ流域市町の構成自治体ではないのでね、そのところが大前提として

質問していただきたいと思います。

【静岡朝日テレビ】

わかりました。

【司会】

はい、いかがでしょうか。はい、毎日新聞さん。

【毎日新聞】

毎日新聞です。すいません、一点、確認をお願いしたいんですけども、今のところJRの個別の質問の、個別の話し合いの件なんですけれども、今のところJRの方から訪問者についてであったりとか、時期についてだったりとか、そういう打診とか、相談とかも一切、まだないということで間違いな  
いですかね。

【市長】

はい。

【毎日新聞】

わかりました、ありがとうございます。

【司会】

いかがでしょうか。よろしいですか。はい、NHKさん。

【NHK】

先ほどの地域医療構想、もう一度、伺わせてください。今、静岡県地域医療構想会議で、9月にありましたけれども、静岡市の保健福祉長寿局長からは、ご発言はなかったようでしたけれども、今後は厚労省の締め切りに向けて、市も積極的に、この地域医療構想に関わっていくという理解をしてよろしいですか。

【市長】

関わっていくというか、発言をしていくということですね、とんでもないと。

【NHK】

あるいは地域医療構想、病院のダウンサイジングも含めて、例えば、県は各市内 4 病院も含めてヒアリングをしていくということとかを、今後、事務的に進めていくわけですけども、そこに市も関わって…

【市長】

私は、国の地域医療構想の発表の仕方にごく批判的ですので、そんなものは、「そうですか」という程度ですね、はい。ですが、ここで名指しをされた清水桜ヶ丘病院であるとか、清水厚生病院、静岡厚生病院の今後の中長期の安定的経営に向けては、最大限に関わっていきたいし、協力をしていきたいというふうに思っています。

【NHK】

来年3月、ないし9月に県から地域医療構想に対する当座の回答を出すにあたって、そこに市はコミットしていくのか。

【市長】

それは肅々、依頼された事項については、担当の保健福祉長寿局が協力をしていくということになるかと思います。

【NHK】

積極的なコミットではないということ、積極的に何か乗り出していくという感じではないわけですね。

【市長】

先ほど申し上げたとおりでございます。

【NHK】

わかりました。

【市長】

保健福祉長寿局は今日、来ている？また、個別に取材してみてください。

はい、お願いします。

【小長谷副市長】

今、記者のお話があるようにですね、来年の9月を目途にそういうお話もありますので、私どもは、私どもとして、こうあるべき姿ということについては、関わりを持って発言をさせていただくというような準備を、これからするということでもあります。以上です。

【NHK】

ありがとうございます。時間があれば別の話題もいいですか。

【市長】

フォローしていただき、副市長ありがとうございました。もう時間ないでしょ？

【NHK】

45 分まで、すいません。明日海りおさんについて、退団されましたけれども、今フリーな状態だと思えますが、市長から何かメッセージを送られたりしたかということと、今後、市と何か協力してというのは何か、次のステップに向けて話されていることがあるかどうか、あれば。

【市長】

本当に宝塚で素晴らしい功績を残したスターとしてね、静岡市長、誇りに思っています。で、今回、退団をしてこれからフリーになって、新たな人生を歩まれるわけですけど、私たちは宝塚のスターであるないに関わらず、これからもずっと明日海りおさんの応援団にいるから、現にね、観光親善大使も務めて、忙しい中でくださったわけですからね、そんな感謝の気持ちも込めて、これからもずっと、どんな道に進もうと静岡市あるいは静岡市長としてね、応援をしていきますよということを、先日、千秋楽の公演に行つて彼女と会つた時に、私から直接エールを送りました。

【NHK】

こういうことをということを、何か話されたわけではなかったですか。

【市長】

まだね、その時、千秋楽の公演に集中していた真最中でしたので、とにかく今は、11 月の 24 日だけ、千秋楽、それに向けてね、全力を尽くしてくださいということだけ申し上げました。

【NHK】

わかりました。もう一つだけ、私、たびたび伺っているインクルーシブ教育についてですね、この間、これだけ聞かせください。いいですか。この間、議員さんがですね、市会、県会の中で視察に行くという動きが相次ぎまして、議員さん達の中でも、普段、市長が掲げていること、静岡市の理念と照らし合わせると、やはりちょっと齟齬があるのではないかとということ、障害のあるなしに関わらず、ダイバーシティ、ハーモニーだということ、誰一人取り残さないという理念と齟齬があるのではないかという意見を、印象を持たれた方もいらっしゃるようなんですけれども、まず市長としてそういったご意見をどう受け止めていらっしゃるかとということ、教育委員とも話をするということをおっしゃっていましたが、話をされるのかどうか、いかがでしょうか。

【市長】

議員はどなたがおっしゃっていたんでしょうね、まだ本会議の論点にね、なっていませんので、記者、ご存知のとおりです。教育委員とはこれから話をしていくつもりです。

【NHK】

特に今後どういう方向性でということは、今の段階ではないということでしょうか。

【市長】

ありますよ。

【NHK】

では、また推移を見守らせていただきます。ありがとうございました。

【司会】

はい、いかがでしょうか。よろしいですか、ありがとうございます。